

## くまびょう

94号

NEWS

くまびょう  
NEWS2005年  
4月1日

【発行所】

国立病院機構熊本医療センター  
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

## 独立行政法人化2年目を迎えて



国立病院機構  
熊本医療センター  
病院長  
宮崎 久義

従来の国立病院・療養所  
がいわゆるナショナルセン  
ター（国立高度専門医療セ  
ンター）、ハンセン療養所  
を除く154の病院が一つの  
独立行政法人国立病院機構  
として発足したのが平成16  
年4月1日で、丁度1年を  
経過致しました。

国立病院機構本部は東京（東京都目黒区）におかれ、  
さらに全国を北海道・東北、関東、東海、近畿、中国・  
四国、九州の6ブロックに分け、夫々にブロック事務  
所が設けられています。九州ブロック事務所はヤフー  
ドーム（旧福岡ドーム）の隣の国立病院機構九州医療セ  
ンター敷地内に新築され約37名の職員が働いています。  
この1年の間に全国で154あった病院が以前より継続し  
て行われてきた再編成事業により149病院となり、九州

ブロック内では28病院から27病院になりました。

さて、国立熊本病院は国立病院機構熊本医療センター  
と名称も変わり、中核病院の一つとして新しい歩みを  
進めてまいりました。この1年間を振り返りますと、  
病院の新築工事に着工できたこと、第1期工事として  
の附属看護学校が竣工したこと、形成外科診療を開始  
できたこと、看護師配置を2：1に増強できたこと、  
治験契約が約1億円に達したこと、など大きな進歩を  
遂げることができました。先生方の御指導、御協力の  
おかげと感謝しています。

本年は精神科病棟の看護師配置を2：1に増強する  
とともに、新臨床研修医2期生を多数迎えることがで  
きそうです。地域の先生方との機能分担と連携に努め  
ながら、良質の医療を提供すべく更なる精進をしてい  
きたいと心を新たにしているところです。本年度も引  
き続き御指導、御支援を賜ります様、よろしく願い  
申し上げます。

## 基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1. 最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2. 人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3. 教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4. 国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5. 健全経営に努め、医療環境の向上を図ります



## 今は外からエールを送っています

### 七城木村クリニック 院長 木村 圭志



国立病院機構熊本医療センターと名称変更される以前の旧国立熊本病院（以下熊病と略）に28年間勤務し、平成15年4月転勤して国立療養所杵岐病院に1年間勤務致しましたので、通算29年間国立病院にお世話になりました。昨年春定年により退職し、5月から郷里の菊池市七城町でクリニックを開業して今日に及んでいます。熊病勤務中には副院長の命をうけ平成8年度に始まった開放型病院に取り組み、又その広報誌「くまびょうニュース」には創刊号から関わりました。以来多くの登録医や医師会役員の方々に「くまびょうニュース」の原稿をお願いし快く投稿して頂きましたことに、改めてこの紙面をお借りして御礼を申し上げます。

熊病を離れて2年が経過して原稿依頼を受ける立場となりました。今は、外から国立病院機構熊本医療センターをみているわけですが、内から対応していたことを思いつつ、愚見を述べてみることに致します。

名称が長くなり“独立行政法人”の名称も入れると“独立行政法人国立病院機構熊本医療センター”

となりますが、“独立行政法人”と言えば私も在任中に厚労本省や九州厚生局の会議や研修会で“独法”への移行が如何に大変な変革であるかを聞き及んでいました。独法へ移行してから1年間職員各位には苦勞の多い日々だったろうと推測いたします。

更に宮崎院長には独立行政法人国立病院機構九州ブロック担当理事として、また、全国150余の全国国立病院院長協議会の会長として、九州全体そして全国の国立病院機構の運営にも配慮され、席の暖まる暇がないのではないかと思います。一方、平均在院日数は14日以内に短縮し、救急医療の実績が一段と上昇していると伺っています。このように病院全体が活発であることは全国的に高く評価されていることであり、病院改築工事が着工されたことも良好な病院運営を示す証と思います。

今後も引き続き国立病院機構熊本医療センターが実績を上げるため医療連携は最重要と考えます。開放型病院の展開を中心にした患者紹介システムは良く機能していると感じますし、私もこの1年間に10の診療科に患者を紹介してお世話になりました。何れもの確な回答を頂き感謝しています。常に医療連携を進めるために大変努力をされていることを承知していますが、それでも時にはこれで十分かと検証することも必要かと思われれます。殊に逆紹介に際してハード面だけでなく、看護機能も含めてソフト面を一層重視して紹介されるよう希望します。それは国立病院機構熊本医療センターと紹介先とは患者サイドからは一体として評価されかねませんので、慎重な運用が求められると思うからです。

国際医療協力を推進すると共に地域に根ざす病院であるために課題は尽きないと思われれますが、今後とも医療連携のネットワークを強化して益々発展されることを念願しエールを送ります。

### ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

## 新任職員紹介



感覚器センター

皮膚科 医長

かや しま けん いち  
萱 島 研 一

昨年2月から熊本労災病院の皮膚科部長を務めておりましたが、この度、国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長として着任いたしました。やっと労災病院での仕事が軌道に乗り始めたところでしたので、残念な思いが強くなり迷いもありましたが、また一から

始めればいいのかというやや楽観的な考えもあり、異動をお引き受けすることにいたしました。前任の前川先生は大先輩（仕事は勿論ですが、大学時代の硬式テニス部の大先輩でもありまして）であり、大学医局に入局した時は医局長を務めておられました。そのような前川先生の後任として、無事仕事をこなしていけるのか不安と緊張で一杯ですが、精一杯頑張りたいと思っています。

病診連携は勿論のことですが、おそらくまだ慣れない面も多々あると思われ、ご迷惑をおかけすることもあるかと思われ。何卒ご容赦の程をお願い申し上げますとともに、先生方のご指導ならびにご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



感覚器センター

眼科 医長

みや がわ しん いち  
宮 川 真 一

平成17年4月から眼科に勤務することになりました宮川真一です。昭和60年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学眼科医局に入局しました。大学院医学研究科

では細菌性角膜潰瘍での細菌性プロテアーゼとインヒビターの治療効果をテーマに眼感染症の研究に従事いたしました。臨床面では熊本大病院で緑内障に属し、主に緑内障の外来と手術を担当しておりました。また平成13年からは熊本市市民病院にて緑内障・白内障に加え未熟児網膜症の診療と治療をおこなっておりました。

当院での勤務は初めてで救急患者も多く戸惑いも多くあると思いますが、皆様に満足して頂ける眼科診療を心掛けていきたいと思っています。各方面の先生方の御指導、御鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



総合医療センター

血液内科

まつ の なお ふみ  
松 野 直 史

はじめまして。内科で勤務することとなりました松野直史と申します。私は平成8年熊本大学医学部卒業後、熊本大学医学部附属病院第二内科に入局しました。4年間の内科研修後、同第二内科大学院で造血器腫瘍、特に急性白血病についての研究を行いました。平成16

年度は、同附属病院血液内科に勤務し、この度国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液内科でお世話になることとなりました。

国立病院機構熊本医療センターは、県下で唯一同種造血幹細胞移植を行っている施設であり、私の第一の目的はこの同種造血幹細胞移植について研究し、実践できるようになることです。

さらには、難治性の白血病や悪性リンパ腫の治療成績が向上することに少しでも貢献したいと考えています。同時に内科医としての幅も広げていきたいと考えています。新しいことにチャレンジしてこられた諸先輩方を習ってがんばっていききたいと思います。どうぞご指導をよろしくお願い致します。



総合医療センター

腎センター

みや なか けい  
宮 中 敬

この4月より腎臓内科医として赴任致します宮中敬です。前任の白石先生とは大学時代からの友人ですが、前任に負けないように頑張っていきたいと張り切っております。私は10年前、3年目のレジデント時代を旧国立熊本病院で勉強させて頂きましたが、この年に結婚し、仕事もプライベートも充実した一年だったと覚

えています。

その後、大学院にて腎臓におけるアルギニン代謝系と一酸化炭素合成系の役割に関する研究に携わりました。大学院卒業後、5年間を大牟田天領病院に勤務していました。赴任当初は3人いた腎臓内科医が、医師不足のため私一人の状態となり大変苦労しました。

この度国立病院機構熊本医療センターにて医長の富田先生と一緒に仕事させて頂くことになり、大変喜んでおります。富田先生は大学時代のテニス部の先輩でもありますので、親密な連携をとりながら楽しく仕事ができると思います。若輩者ではございますが少しずつでも成長しお役に立てるようになりたいと考えておりますので、是非ご指導頂きますようお願い申し上げます。


**2005年**

**診療科紹介 (19)**

---

**消化器病センター**

**消化器科**



## 研 究

全国の国立病院機構肝疾患専門施設と共同でウイルス肝炎、原発性胆汁性肝硬変等の臨床研究を行っています。院内活動では、平成15年より患者との教育と交流を兼ねて「肝臓病教室」を毎月第3金曜日に開催しています。

また、国際医療協力として平成15年より新しく「肝炎の疫学とその予防、治療対策セミナー」を通じて JICA (国際協力機構) と共に途上国の肝炎専門医師等に対する研修を指導しています。



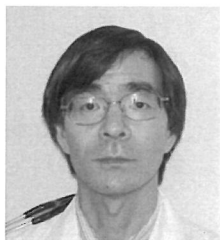
**杉 和 洋**

消化器内科、消化器内視鏡、  
肝臓病、腹部超音波  
日本内科学会指導医  
日本内科学会認定医  
日本肝臓学会専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器病学会認定指導医  
日本消化器病学会九州評議員



**前 田 和 弘**

消化器内科、消化器内視鏡、  
治療内視鏡  
日本内科学会指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器内視鏡学会認定指導医



**加 茂 章 二 郎**

消化器内科、消化器内視鏡、  
治療内視鏡  
日本内科学会指導医  
日本内科学会認定医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医



**中 田 成 紀**

消化器内科、消化器内視鏡、  
治療内視鏡、肝臓病



**藏 元 誠 子**

内科一般、消化器内科



**牧 曜 子**

内科一般、消化器内科

## 特 色

消化器科は、外来・入院の消化器病診療、および内視鏡検査室、超音波検査室の運営を行っています。

近年、人的にも機器の面でも診療機能が強化され、検査件数や患者数が増加しています。

当科の診療の基本理念は、丁寧な対応と入念な治療、協調協力と新しい挑戦です。消化管内視鏡治療、慢性肝炎に対する抗ウイルス療法、肝細胞がんの診断と治療をはじめ、消化器疾患全般を広く治療しています。特に肝疾患治療に関しては精力を注いでいます。

毎週水曜日には午後5時より内視鏡検査の症例検討会、6時より外科との合同症例カンファレンスを、金曜日午前8時より消化器病カンファレンスを病院本館2階カンファレンスルームで行っています。

御参加を歓迎致します。

## 診療実績

平成15年度（16年度2月末現在）入院患者の内訳は次の通りです。

C型慢性肝炎に対する抗ウイルス治療（インターフェロン、リバビリン）15例（27例）  
 原発性胆汁性肝硬変13例、非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）9例（6例、8例）  
 肝細胞がんに対する肝動脈塞栓術31例、経皮的ラジオ波焼灼療法24例（52例、23例）  
 内視鏡的大腸ポリープ切除術および胃粘膜切除術22例（20例）

### [患者数]

(名)

	外来新患者数	月 平 均	新入院患者数	月 平 均
平成13年度	1,612	134	852	71
平成14年度	1,505	126	963	80
平成15年度	1,549	129	1,047	87
平成16年度（2月末現在）	1,518	138	977	89

## 国際 医療協力

平成16年度

2005.2.14～2005.3.11

第1回国別研修 イラク南部地域医療協力(小児科Ⅱ)研修

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、ACIH（国際保健医療交流センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

平成17年2月14日より「平成16年度第1回国別研修イラク南部地域医療協力（小児科Ⅱ）コース」に2名が、当院の教育研修棟に宿泊しながら研修を行っています。

本コースは、イラク復興のため、日本政府による国際医療協力の一環として、本年度より計画されたものです。

今回は、イラク南部地域への医療協力として小児科医2名が3月11日まで当院教育研修棟に滞在し、国立病院機構熊本医療センターを中心に小児科一般、感染症、アレルギー、血液疾患、新生児医療などに重点をおいた研修を行いました。  
 （庶務班長 上園直仁）

写 真	氏名・国名 職業・所属等	写 真	氏名・国名 職業・所属等
	アル・アティア アミン トゥーク アティア イラク アル・シューク総合病院 ナシリール 小児科専門医		ジャシム ナセル オタ アル カリディ イラク ティカ・アル・レファイ病院 小児科医

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構 熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>

最近のトピックス

ネフローゼ症候群に対する  
LDL吸着/スタチン治療の効果



総合医療センター  
腎臓内科医長  
(腎センター長)

富田 正郎

前回(くまびょうNEWS 56号, 2002年2月)に引き続きネフローゼ症候群についてお話しいたします。ネフローゼ症候群は大量の蛋白尿を来す病気の総称であり、低アルブミン血症や浮腫、高脂血症を伴います。現在最も多いネフローゼ症候群は糖尿病性腎症によるネフローゼ症候群です。糖尿病性腎症はステロイドが全く無効で蛋白尿を消失させる治療はいまだ存在しません。しかしながら2001年に大規模臨床試験のRENAAL試験でアンギオテンシンII受容体拮抗薬の腎保護作用が証明され、今日では糖尿病性腎症の進行抑制に欠かせない治療となっております。

一方原発性のネフローゼ症候群に対しては蛋白尿の消失・完全寛解を目標としてステロイドを中心に治療を行っています。

前回は膜性腎症に対するステロイドとシクロスポリンの併用療法の有用性についてお話ししました。今回は難治性ネフローゼ症候群の代表的疾患である巣状糸球体硬化症について触れてみたいと存じます。

従来、巣状糸球体硬化症は腎機能予後の悪い疾患と

されており、10年で腎不全に進展する割合が50%と言われておりました。しかし最近の調査では腎不全に進展する割合は10年間で約30%と改善してきており、成人の巣状糸球体硬化症の70%を寛解に導入しうることにも明らかにされました。ステロイドパルス治療やシクロスポリンによる積極的治療が効を奏した結果と考えられます。また高脂血症を伴う巣状糸球体硬化症に対してはLDL吸着療法(図1)が保険適応となっております。近年の予後改善に寄与していると考えられます。

ネフローゼ症候群は高度かつ難治性の高脂血症を伴う場合が多く近年発売されたアトルバスタチン、ピタバスタチンなどの強力なスタチンを使用してもコントロール困難です。加えて治療のためのステロイドの影響でさらに高脂血症が悪化します。高脂血症は全身および腎臓の動脈硬化の原因となりますし、特に高LDL血症は腎糸球体内で活性酸素の産生を促進し、糸球体障害の一因となることが知られています。また、高脂血症はシクロスポリンの効果を妨げる研究結果があります。つまり高脂血症が薬効を妨げ悪循環を形成している可能性があるのです。このような症例にLDL吸着療法を行いますと血中のLDLが著明に低下し、ステロイド・シクロスポリンの薬効が高まり蛋白尿が減少し、蛋白尿が減少すれば高脂血症も改善していきます。

以上の理由によりLDL吸着療法は有用な治療であると考えますが、高額のため患者への経済的負担と、体への侵襲(ブラッドアクセスの穿刺)のデメリットがあります。国立病院機構熊本医療センターでは急性期にLDL吸着療法を少数回施行して悪循環を断ち、内服のスタチン系薬剤への早期切り替えによってLDLの再上昇を抑える加療を行っており、著効例が蓄積されてきております(図2)。

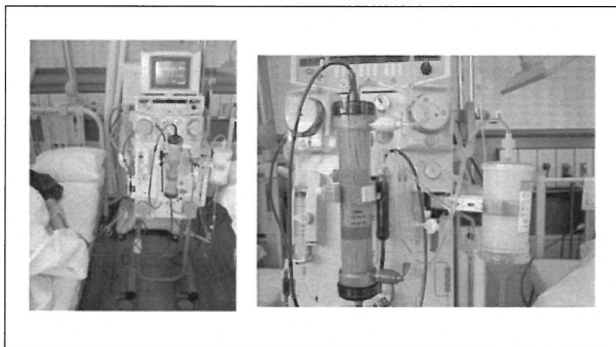


図1 LDL吸着療法

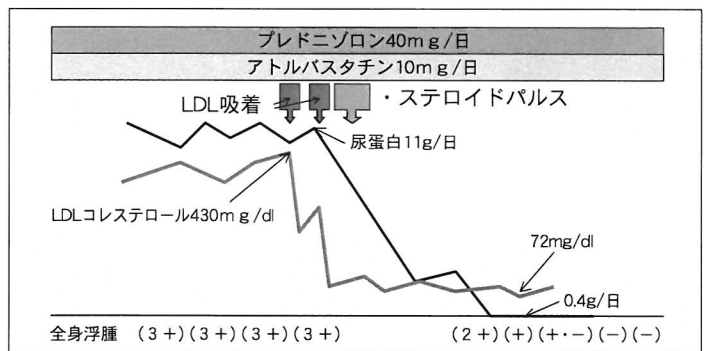


図2 LDL吸着療法/スタチン治療が奏功した  
巣状糸球体硬化症によるネフローゼ症候群の1例

# 研修のご案内

## 第191回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成17年4月16日（土）15：00～18：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「救急蘇生の実際」

座長 玉名郡市医師会副会長 岡本 喜雄

1. 到着時心肺停止患者の動向

国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅

2. 今日の救急蘇生（ACLS）

国立病院機構熊本医療センターICU室長 瀧 賢一郎

3. ACLS実習

国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 江崎 公明

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

## 第75回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成17年4月18日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例呈示「高血圧性心不全の1例」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝

4. ミニレクチャー「当院における肝臓病の最新の治療」

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科医長 杉 和洋

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

## 第44回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成17年4月21日（木）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三

第1部 『糖尿病1次予防システムの福岡市、福岡市医師会の挑戦』

—症状のない境界型、軽症糖尿病患者をどう引き止めるか—

第2部 『20年に及ぶ病歴を追跡したY S氏に学ぶインタビューを含めて』

福岡市医師会成人病センター副院長 三村 和郎

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

## 第78回 総合症例検討会（CPC）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成17年4月27日（水）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ：急速な腎機能の悪化をきたした70歳代男性

（症例 70歳代、男性／主訴 尿毒症）

臨床担当）国立病院機構熊本医療センター腎センター長

富田 正郎

病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部臨床病理室長

村山 寿彦

「2年前にアテローム血栓性脳梗塞、両下肢閉塞性動脈硬化症に罹患した。1年前には、陳旧性心筋梗塞とラクナ脳梗塞に罹患している。」

\* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。どなたもお気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

平成

17年

# 研修日程表

4月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

4月	研修ホール	会議室	ほか
1日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
4日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
5日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
6日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
7日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
8日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
11日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
12日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
13日(水)	18:30~20:00 病薬連携研修会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
14日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
15日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
16日(土)	15:00~18:00 第191回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 玉名郡市医師会副会長 岡本 喜雄 「救急蘇生の実際」 1. 到着時心肺停止患者の動向 国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅 2. 今日の救急蘇生(ACLS) 国立病院機構熊本医療センターICU室長 瀧 賢一郎 3. ACLS実習 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 江崎 公明		10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校
18日(月)	19:00~20:30 第75回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
19日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
20日(水)	13:00~18:00 第19回 医療マネジメント学会主催クリティカルパス実践セミナー in 熊本 [1日目] 18:00~19:30 第37回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)		17:00 消化器疾患カンファレンス C
21日(木)	8:50~14:30 第19回 医療マネジメント学会主催クリティカルパス実践セミナー in 熊本 [2日目]		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
	19:00~20:30 第44回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	
22日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
23日(土)	13:30~17:00 第63回 ナースのための救急蘇生法講座《会費制》 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 江崎 公明 ほか		
25日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
27日(水)	19:00~20:30 第78回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「急速な腎機能の悪化をきたした70歳代男性」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
28日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 学校 看護学校  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)